

AkiHO

2026年 春

vol. 69

特集
身体拘束最小化チーム
の取り組み



ご自由におとりください。

理事長挨拶



地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構
理事長 島貫隆夫

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構は、平成20年4月に山形県と酒田市が共同で設立し、急性期医療を担う「日本海総合病院」と、回復期医療を主体とする「日本海酒田リハビリテーション病院」を運営してまいりました。さらに平成30年4月には、酒田市から「日本海八幡クリニック」と市内5つの診療所が移管され、地域医療の

充実に努めております。また同年4月には、医療・介護・福祉が連携し、切れ目のないサービスを将来にわたり安定して提供することをめざし、当法人が中心となって「地域医療連携推進法人 日本海ヘルスケアネット」を設立いたしました。これまでの皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、医療を取り巻く社会環境は近年大きく変化しています。庄内地域でも人口減少と少子高齢化が進み、疾病構造の変化や複合的なニーズを抱える方々が増えてきております。特に高齢者の軽度急性増悪に対しては、迅速な対応により早期回復が期待されることから、地域の医療機関や介護施設、訪問看護等の関係機関が連携し、高齢者の医療・介護ニーズに対応することが一層重要となっております。こうした状況を踏まえ、当法人では地域全体の連携を強化するため、多職種連携システム「Tero」を導入しました。クラウド上で患者さんの情報を多職種・多機関でリアルタイムに共有することで、地域全体が一つのチームとなって支える体制を整備しております。今後皆様と力を合わせ、より理想的な地域医療連携システムの構築に取り組んでまいります。また、人口減少に伴う新規入

院患者数の減少や、開業医の高齢化と減少、看護師をはじめとする医療従事者の不足など、持続可能な医療体制の確保に向けた課題も深刻化しています。さらに、専門的な急性期医療の集約化や地域医療・災害への備えも重要であり、これまでの感染症対応で得た経験からも、地域全体での連携と情報共有の重要性が改めて明らかになっています。これらの課題に対応するうえで、医療DXの推進は欠かすことができません。環境変化を的確に捉えつつ、思いやりの心を大切に、患者さんとご家族、そして医療・介護・福祉関係者の皆様との信頼関係を深めながら、より良い医療サービスの提供に努めてまいります。基本理念のもと、職員一丸となって力を尽くしてまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

身体拘束最小化チームの取り組み

整形外科身体拘束最小化チーム委員長 副院長 針生光博

身体拘束最小化チームとは

身体拘束とは、入院中の患者さんの不穏行動等による転倒や事故を防ぐ目的で、ベッドや車いすにからだを固定したり、ミトン型手袋を使用するなど、本人の動きを制限する行為を指します。これらは安全確保の一つの手段として行われますが、同時に身体機能の低下や精神的苦痛、不安や混乱を招くおそれがあることも知られています。

このため当院では、身体拘束は原則として行わず、やむを得ず実施する場合であっても、最小限かつ短期間にとどめることを基本方針とし、患者さん一人ひとりの尊厳を大切にし、安心・安全な医療を提供するため、「身体拘束最小化チーム」を設置しています。身体拘束最小化チームは、医師、病棟看護師長、看護師（認知症看護認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護

認定看護師、老人看護専門看護師）、薬剤師、リハビリテーション技師、社会福祉士、医療安全管理者などの多職種が連携し、身体拘束に至った背景や原因を多角的に検討しています。

身体拘束を減らすための 当院での取り組み

身体拘束を減らすために、転倒リスクの評価や生活環境の調整、不安や痛みへの配慮、声か



けや見守りの工夫など、身体拘束に代わるケア方法を検討・実践しています。例えば、院内レクリエーションを実施することにより生活リズムを整え、不穏行動の軽減、回復意欲やQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上が認められるようになっていきます。また定期的に多職種によるカンファレンスを行い、拘束の必要性を継続的に見直し、可能な限り早期解除をめざしています。あわせて、職員への研修や意識啓発を行い、施設全体で身体拘束を最小化する文化の醸成に取り組んでいます。

患者さん、地域の皆さまへ

今後も当院は、患者さんの命と安全を守り、その人らしい生活や療養が継続できるように、地域の皆さまのご理解とご協力を得ながら、身体拘束最小化に向けた取り組みを推進してまいります。

認知症マフについて

認知症看護認定看護師 佐々木 恵理子



認知症マフとは

「筒状のカラフルにデザインされたニット製品、英国では Twiddle Muff と呼ばれ、認知症の人の落ち着かない手を穏やかに温かく保ち、触覚や視覚という感覚を用いたケアに活用されています。」¹⁾



1) 引用・参考文献
浜松医科大学臨床看護学講座 鈴木みずえ・金盛琢也・稲垣圭吾他, Twiddle Muff (認知症マフ) 活用ケアガイド Vol2, 2023.

認知症の人は、症状の進行に伴い、思いを言葉で表現することが難しくなることがあります。そのため、思い通りにいかず焦ったりイライラしたりするなど、気持ちの整理がつかず不安な状態（焦燥感）がみられることがあります。また、治療や入院による環境の変化は、不眠や意欲低下などの行動・心理症状、せん妄を発症しやすいといわれています。認知症マフはマフの筒の中に握ることのできる毛糸玉やぬいぐるみなどのアクセサリをいれており、握ったり離したりすると癒し効果やリラッククス効果、ストレス緩和の作用があります。

地域包括支援センターにいただきより、おしゃべりマフの会の皆さんが作成されたマフを25個寄付していただきました。いただき

いたマフは、カラフルな毛糸で編まれた季節の果物やキャラクターがあしらわれた素敵なものでした。認知症や高齢の患者さんが入院中少しでも穏やかに、マフを通じて楽しい会話につながるよう、そんな温かい思いやりで作られたたくさんマフを、当院で活用しています。

認知症マフの活用方法

他施設や地域で活用する場合、是非確認してみてください。

- アイコンタクトをとりながら、「○○さん、これは、手を温める毛糸です、触ってみませんか？」と好みを確認する。
- コミュニケーションが難しい場合、マフの中にある掴むためのボールや毛糸玉等を握ってもらい、マフに興味を示すか落ち着くかなど反応をみる。
- マフを手渡すのではなく、コミュニケーションをとり、反応をみながら見守ることが大切。

当院での認知症マフの活用

マフを患者さんに見せて触ってもらい、毛糸玉やぬいぐるみなどのアクセサリや中にある握る部分を自ら触る患者さんの姿があります。高齢女性には特に反応が良く、「可愛いね。」などの声があがっています。使用している患者さんの姿を見て、ご家族からも「凄く安心すると思います。ボールみたいに握るのもあっていいですね。運動にもなりそう。」などのお声をいただいています。認知症マフは認知症の人とケアする人の優しさを引き出す一つの手段で、笑顔にも繋がるがあります。マフを通し、対話をする事で、認知症の人の安心感に繋がればと願い今後も活用していきたいと思えます。



実際におしゃべりマフ（認知症マフ）を製作されている、おしゃべりマフの会の代表佐藤さんよりお話を伺いました。佐藤さん達は、いろは蔵まちの保健室内で、おしゃべりマフの会を月1回開催しています。



日本海総合病院
佐々木看護師



おしゃべりマフの会
佐藤さん



佐々木 おしゃべりマフの由来はありますか？



佐藤 「おしゃべりしながら楽しく作り、そこから会話の輪を広げたい」という願いを込めています。単なる製作の場ではなく、メンバー一人ひとりが「どうすれば喜んでもらえるか」と知恵を出し合い、年齢や経験を問わずそれぞれの「できること」を活かして活躍できる、地域の居場所でありたいと考えています。



佐々木 認知症マフを知ったきっかけ、作ろうと思ったきっかけは何ですか？



佐藤 民生委員として地域を回る中で、地域には、まだまだ元気で、誰かの役に立ちたいと願っている方がたくさんいらっしゃると感じました。そんな折、「認知症マフ」を知り、そのカラフルで可愛らしい姿に「これなら皆で楽しく作れ、地域貢献にもつながるはず」と直感したのが始まりです。



佐々木 マフに込める思いはどのような思いがありますか？



佐藤 マフは手を温めるだけでなく、なでる、握る、眺めるといった刺激が、患者さんに安心感や落ち着きをもたらし、より気持ちよい肌触りにするため、内側にはやさしい生地をつけています。つながる温情として、使用する毛糸や生地は寄付してくださった方々の想いも詰まっており、多種多様で個性豊かな一点ものです。



佐々木 急性期病院で活用することへの思いなどがあれば教えてください。



佐藤 入院という不安な環境にいる患者さんにとって、マフが「心に彩りを添える温かな存在」になればと願っています。同時に、医療の最前線で働くスタッフの方々にも、手作りの温もりを通じて「ほっこり」した瞬間を届けたい。患者さん・スタッフ・地域の人々がマフを通じて優しく繋がるようなケアマフでありたいです。



庄内地域の皆さんと一緒に、認知症の方が安心して暮らせる地域づくりをめざし、庄内地域における認知症ケアを、少しでもより良いものにできるよう、私たちも精進していきたいと思ひます。



院内レクリエーション

院内レクリエーションとは

院内レクリエーション（以下、院内レク）は、身体拘束最小化チームの取り組みのひとつとして令和6年11月から開催しています。月1回の開催から始まりましたが、徐々に運営メンバーを増やし、現在は週1回開催しています。レクリエーション内容は体操、風船バレーや輪投げなどの運動と塗り絵やちぎり絵などの制作があり、患者さんの状況や希望に合わせて行っています。また、大花火のちぎり絵やクリスマスツリーの制作、運動会というテーマで玉入れ



輪投げ



毎回、体操のお兄さん（リハビリスタッフ）の体操からレクを始めています。

を行うなど季節感を大切にしたレクリエーションをしています。

院内レクの目的

院内レクは寝たきりや認知機能低下の予防などの目的もありますが、身体拘束の最小化が主な目的です。身体拘束を実施する要因の多くは、せん妄の発症によって安全に治療が受けられない状態になることです。せん妄は意識のぼんやりした状態に加え、幻覚・妄想・興奮などがみられる状態で、入院などの環

境の変化や疾患・治療による苦痛によって起こりやすくなります。せん妄の改善のためには、苦痛の緩和はもちろんですが、日中は活動して夜はゆっくり眠るという生活リズムを整えることがとても重要です。日中の活動を促すこと、他の患者さんやスタッフとコミュニケーションをとることでせん妄の改善、身体拘束の早期終了につながるため、患者さんの尊厳を守りながら療養生活を継続することをめざしています。



クリスマス前のレクの様子

取り組みを通して

参加した患者さんからは「もっとしたいね。」「また来るの。」「と楽しんでくれている声が聞かれます。また、「昔を思い出す。よく子供とやったんだよ。」「若い頃にバレーやったんだ。」「農家だったから体動か

すほうが得意だんだ。」と院内レクをきっかけにこれまでの人生を振り返り、他の参加者と盛り上がることもあり、私たちスタッフにとっても患者さんの人生に触れられる貴重な時間になっています。院内レク中の患者さんの様子を病棟スタッフに情報共有することで、病棟でも塗り絵など行うために車いすに座り、スタッフと会話して過ごす時間がとれているように思います。急性期病院での入院生活は治療のため制限が多く、苦痛を感じることも多いかと思いますが、今後も院内レクを通して患者さんが笑顔になれる機会を増やしていきたいと考えています。



大花火のちぎり絵

患者さんの制作を看護師が手伝っている様子

老人看護専門看護師のご紹介

自己紹介

老人看護専門看護師は、日本看護協会で平成13年より認定が開始された資格で、認知症や嚥下障害などをはじめとする複雑な健康問題を持つ高齢の患者さんやご家族の生活の質を向上させるために、水準の高い看護を提供することを目的としています。専門看護師の役割として、看護実践・相談対応・教育・調



老人看護専門看護師
五十嵐 千里

整・倫理調整・研究の6つがあります。

私が老人看護専門看護師の資格を取得し2年ほどになりました。看護師としても、老人看護専門看護師としても勉強中の身ではありますが、「患者さんが入院中でも、高齢でも、病気でつらい状況でも、最期のときまでその人らしい生き方ができるよう、その人らしい死を迎えられるように、患者さんの味方でありたい」という思いをもって働いています。

老人看護専門看護師の仕事

私は普段、一般病棟に勤務し、



リハビリスタッフと対象患者さんの生活状況やリハ状況について話しあっています

週2日専門看護師として、認知症ケアチームや身体拘束最小化チームの活動を行っています。認知症ケアチームは、認知症や認知機能の低下がある高齢患者さんが少しでも安心して入院生活を送ることができるよう、患者さんのもとに伺いお話を聞き、病棟の看護師と一緒に患者さんとの関わり方などの検討を行います。また、チームメンバーの医師や薬剤師、リハビリスタッフと情報共有を行い、その時々に合わせて対応の検討や退院後の訪問を行っています。その他に、院内レクリエーションの開催や院内外の研修会での講師、研究活動として看護学会での発表を行っています。また、病棟からの依頼があれば、認知症な

どの理由で意思決定が難しい患者さん・ご家族が今後の方針について悩んでいる際には「その人らしさ」を大切に、患者さん・ご家族・スタッフと一緒に考えています。

今後の展望

高齢多死社会と言われる現代で、人生の最終段階をどのように迎えるか、その人らしい最期を迎えるための支援が今後さらに求められると考えています。しかし、最期の時について話す、本音を話すということは誰にとってもなかなか難しいことです。まずは、「この人なら話してみようかな」と思ってもらえる存在になることが今の目標です。今後さらに老人看護専門看護師として経験を積み、最期のときまでその人らしく、一人のひととして尊厳が守られる看護を提供できるよう、また、当院が今以上にその人らしさを大切にできる病院となれるよう活動を続けていきたいと考えています。

令和8年度 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構

職員採用試験 実施計画

令和8年度に実施予定の採用予定職種は右表のとおりです。なお、各試験の詳細については、「受験案内」を確認してください。(令和8年3月2日現在)

令和8年度募集職種〈採用予定人数〉			
看護師・助産師 〈30名程度〉	薬剤師 〈5名程度〉	臨床検査技師 〈若干名〉	理学療法士 〈5名程度〉
作業療法士 〈若干名〉	言語聴覚士 〈若干名〉	管理栄養士 〈若干名〉	医療福祉相談員 〈3名程度〉
事務系総合職 〈若干名〉	事務系総合職 (DX担当) 〈若干名〉	診療情報管理士 〈若干名〉	

- 若干名は1~2名程度を予定しております。
- 採用情報は随時更新となります。詳細はホームページをご確認ください。

採用情報はこちら▶



院内保育所

日本海総合病院院内保育所あきほ保育園は、病院機構職員の子育て支援のため、職員の児童を対象として運営されている保育園です。

当園には、次のような特色があります。

- ★ 自家調理による完全給食(地産地消の食事)
- ★ 病児病後児保育所の併設
- ★ 夜勤による夜間保育対応可(完全予約制)
- ★ 土日祝日開所 ★ 生後3か月より入所可
- ★ 少人数での手厚い保育



編集後記

先日、Costcoかみのやま倉庫店様より、おもちゃ等を寄贈していただき小児病棟のある3階西病棟のプレイルームにお渡ししました。

プリンセスの靴を見かけて、とても懐かしい気持ちになりました。

ヒールに憧れていた幼少期、家の中でわざとカツカツ音を立てながら履いていた記憶があります。壊れて片方だけになっても履いていたり、おねだりして同じものを買ってもらったり：当時のワクワクを思い出しました。

入院生活の不安が和らぎ、少しでも笑顔になれる時間が増えたらうれしいです。



地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構

基本理念

思いやりの心を大切にします。
質の向上に努め、安全な医療を提供します。
地域との連携を促進し、住民の健康と福祉の向上を目指します。
持続可能な病院経営を通して、地域に貢献します。

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。

TEL 0234-26-2001 (代表) 日本海総合病院 経営企画課広報誌担当まで

日本海総合病院では広報誌以外にも
情報発信を行っています!



日本海総合病院 X(旧Twitter) 公式アカウント @nihonkai_hosp



研修医 Instagram 公式ページ



看護部 Instagram 公式ページ



薬剤部 Instagram 公式ページ